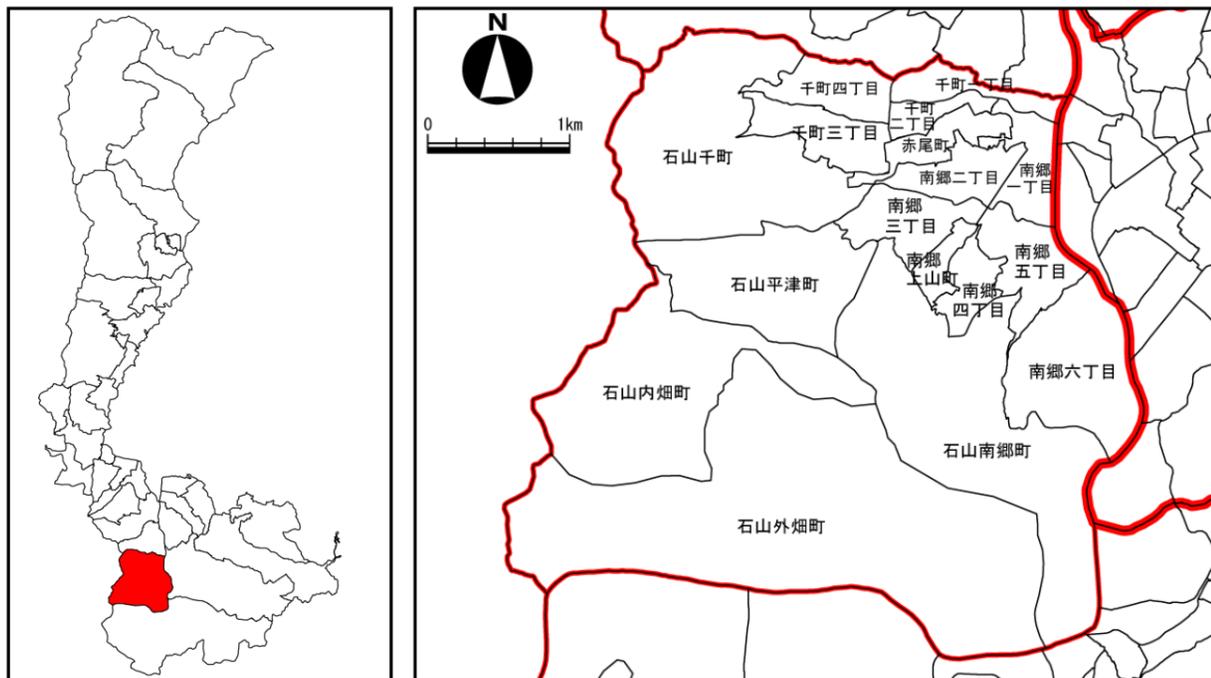


■ 学区の概況



<町丁名>

赤尾町、石山千町、石山南郷町、石山内畑町、石山外畑町、千町一丁目、千町二丁目、千町三丁目、千町四丁目、南郷一丁目、南郷二丁目、南郷三丁目、南郷四丁目、南郷五丁目、南郷六丁目、南郷上山町、石山平津町

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

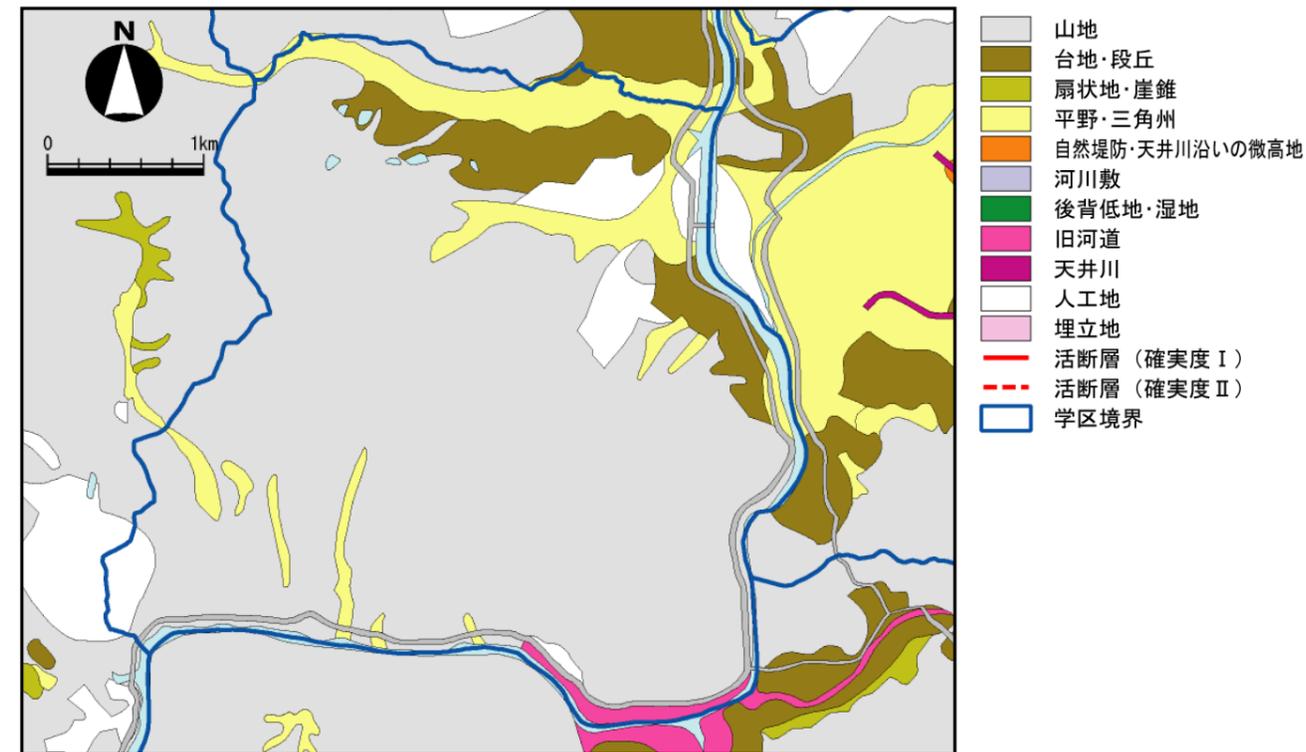
<学区の特徴>

瀬田川と醍醐山地に囲まれた自然豊かな地域である。

南には立木観音、西には岩間寺を仰ぎ、室町時代から観音巡礼が庶民の間に広がると、近江、山城、大和周辺地域の中でも有名な観音信仰の地域となった。

昭和 58 年に人口が増加した石山学区から独立し、その後も急激に住宅開発が進んだ。人口の 9 割は新興住宅地に居住している。地区の中央付近を京滋バイパスが通過し、石山インターチェンジや南郷インターチェンジの建設によって、京阪地域へのアクセスも便利になっている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 南郷地区の地形は大部分が山地からなり、北東部に丘陵・台地や平野などの低地が分布する。
- 低地は瀬田川及びその支流の千丈川、国分川に沿って分布する。
- 台地は中位段丘と高位段丘に分けられ、中位段丘は低地沿いに、高位段丘はその上流部に分布する。瀬田川はこの付近では先行谷となっており、特に鹿跳付近では河幅が狭く溪谷（鹿跳溪谷）になっており、南郷洗堰及び天瀬ダム建設以前は早瀬となっていた。これは周辺の山地が隆起する速さよりも川が谷を削る速さが大きく、川の流路が変わらなかったためである。
- 南郷二丁目、四丁目には大きな宅地開発地があり、人工地になっている。また、地域の南西部の人工地は、採石場である。

<地質の特徴>

- 南郷地域の山地は、主に丹波帯とよばれる中生代の地層と、田上花崗岩からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。田上花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 鹿跳付近の瀬田川河床は田上花崗岩が露出した岩盤河床であり、所々にポットホールと呼ばれる丸い穴が空いている。ポットホールは石が穴に入り込み、その石が水流によって回転し岩盤を丸く削り込んで作られたものである。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
石山平津町	-	-	-	-
赤尾町	61.2	63.9	74.6	33.8
石山千町	62.6	99.5	39.5	60.0
石山南郷町	-	-	-	-
石山内畑町	48.8	99.5	77.2	72.7
石山外畑町	43.9	98.0	88.0	69.1
千町一丁目	60.9	53.0	87.4	32.6
千町二丁目	62.1	49.4	83.8	44.2
千町三丁目	43.9	91.0	71.7	53.2
千町四丁目	57.2	97.6	71.4	44.0
南郷上山町	84.8	79.4	83.1	0.0
南郷一丁目	55.4	82.9	74.6	44.7
南郷二丁目	66.5	59.1	62.1	48.0
南郷三丁目	55.4	98.1	61.1	52.3
南郷四丁目	67.7	57.0	68.7	33.7
南郷五丁目	55.1	80.4	81.2	41.7
南郷六丁目	50.5	97.3	60.0	19.0
学区平均	60.9	94.8	73.7	39.4
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 60.9 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 94.8% で市平均の 93.9% より高い。
- 木造率は、石山外畑町が 88.0% で最も高く、石山千町が 39.5% で最も低い。学区平均は 73.7% で市平均 72.7% より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、石山内畑町が 72.7% で最も高く、南郷上山町が 0.0% で最も低い。学区平均は 39.4% で市平均 40.3% より低い。

■ 人口の状況

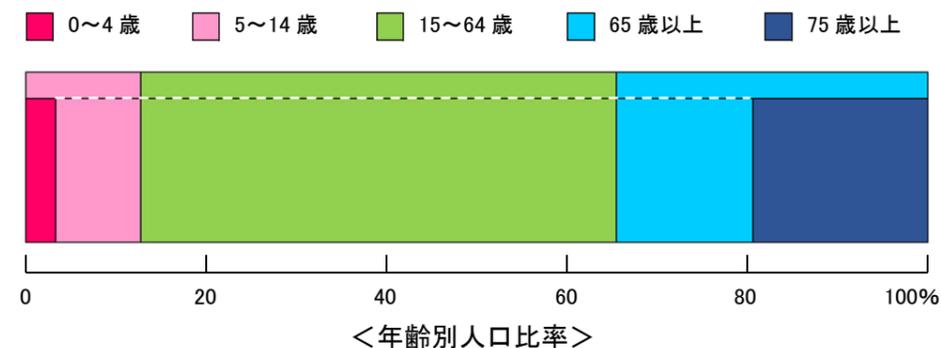
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	9,555	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	314	人	学区人口に対する割合	3.3	1
年齢別 (5~14 歳)	897	人	学区人口に対する割合	9.4	1
年齢別 (15~64 歳)	5,044	人	学区人口に対する割合	52.8	1
年齢別 (65 歳以上)	3,300	人	学区人口に対する割合	34.5	1
年齢別 (75 歳以上)	1,852	人	学区人口に対する割合	19.4	1
世帯数	4,203	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.3	人/世帯		-	2
要介護認定者	639	人	学区人口に対する割合	6.7	3
身体障害者 (要配慮者)	128	人	学区人口に対する割合	1.3	4
知的障害者 (要配慮者)	66	人	学区人口に対する割合	0.7	4
外国人居住者	54	人	学区人口に対する割合	0.6	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区北東部の平野・段丘部は人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 高齢者 (65 歳以上) は 3300 人、乳幼児 (0~4 歳) は 314 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 34.5%、3.3% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 639 人 (6.7%)、身体障害者 (要配慮者) は 128 人 (1.3%)、知的障害者 (要配慮者) は 66 人 (0.7%) である。
- 外国人居住者は 54 人 (0.6%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 ^(注1)	31 箇所	1
土石流危険渓流 ^(注1)	65 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 ^{(注1)(注2)}	54 箇所	2
土砂災害警戒区域 ^{(注1)(注2)}	76 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） ^(注1)	20 箇所	3
山地災害危険渓流（溪流） ^(注1)	16 箇所	3
雪崩危険箇所 ^(注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 ^(注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 ^(注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 ^(注3) (0.0m~0.5m)	32,992 m ²	6
(0.5m~1.0m)	25,734 m ²	6
(1.0m~2.0m)	38,932 m ²	6
(2.0m~)	2,640 m ²	6
特に重要な水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
重要水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 ^(注1)	18 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 南郷学区では北東部の谷筋の多くが土石流危険渓流の影響範囲に指定されており、急傾斜地崩壊危険箇所も点在する。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 豪雨などの場合には、この土石流危険渓流及び急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要である。
- 湖岸（瀬田川）沿いの低地部の一部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域があるため、琵琶湖（瀬田川）からの浸水にも注意が必要である。
- 地震時には、山地部で崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性がある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	南郷小学校グラウンド	○	○	○		南郷一丁目 15-9
	南郷中学校グラウンド	○	○	○		赤尾町 57-1
	南郷幼稚園グラウンド		○	○		南郷三丁目 15-1
	南郷公園	○		○		南郷一丁目 17
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	南郷市民センター	○	○	○		南郷一丁目 12-13
	南郷小学校体育館	○	○	○		南郷一丁目 15-9
	南郷中学校体育館	○	○	○		赤尾町 57-1
	南郷幼稚園	○	○	○		南郷三丁目 15-1
指定避難所	南郷中学校武道場			—		赤尾町 57-1
	(福) 南郷老人福祉センター			—		南郷一丁目 14-30

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
南郷市民センター	南郷一丁目 12-13	537-2326

<警察 110>

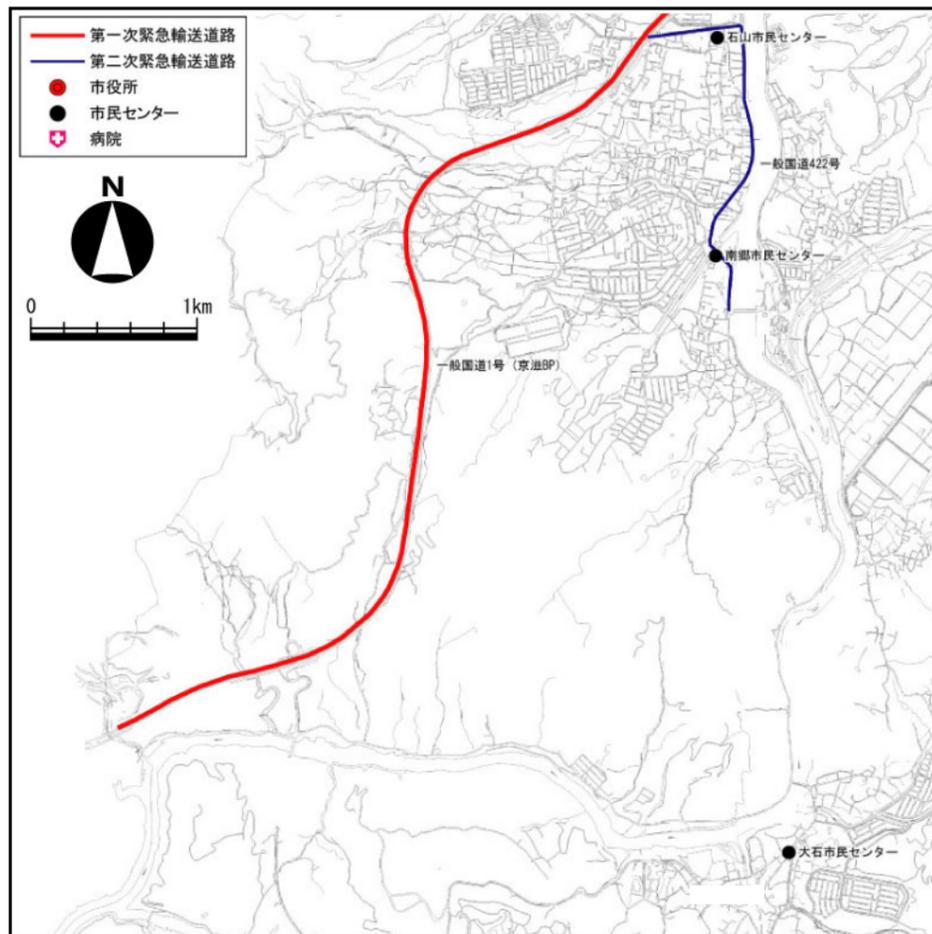
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
南消防署	光が丘町 5-7	533-0119
南郷出張所	南郷一丁目 11-1	537-0119
南郷分団	南郷一丁目 11-1	534-2539



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	3,519	10,124	2	444	223	1	0	0	76	35	42	8	3	4
ケース2	3,519	10,124	0	285	143	0	0	0	51	23	28	5	2	3
ケース3	3,519	10,124	5	358	184	0	0	0	64	32	35	6	3	4

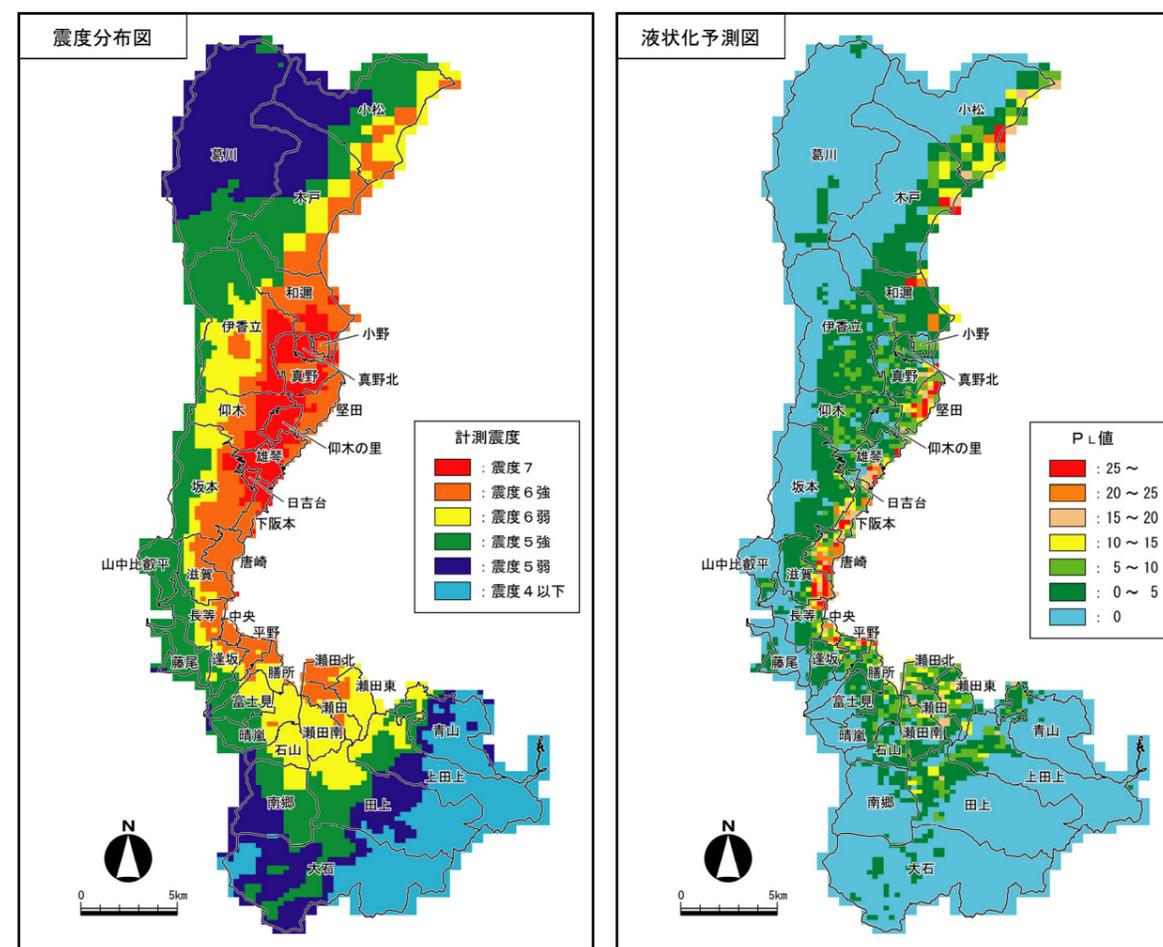
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	0	0	0	366
ケース2	0	0	0	244
ケース3	0	0	0	306

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3) (PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)